

オオムギ、エンパク及び牧畜の研究を行っている。しかし、研究者は場長の1人で技術者が2人それに数人の労働者がいるだけである。この試験場では、30年をかけて“Sani Imilla”というこの地域に適した高収量のバレイショ品種を過去に育成した。現在のバレイショの研究としては、その品種を供試して霜や干ばつを回避する栽培技術を試験しているだけである。また、この試験場では地域5地区の農民に農機具を貸し出したり、栽培技術の相談・指導も行っている。

コチャバンバにあるCIP・ボリビア支所はコチャバンバ郊外にあるIBTAトララパ試験場内に試験地をもち、IBTAと共同でPROINPAというバレイショのプロジェクト研究を行っている。コチャバンバ地域のバレイショ栽培にとってはセンチュウが最大の問題である。センチュウはアンデスの高原地帯すべてにおいて最も重要な問題である。他の問題としては、霜、干ばつ及び疫病がある。

PROINPAでは、農民も育種研究や遺伝資源保存に様々なかたちで参加している。品種育成過程では、まず10回普通の選抜を行い、次に料理加工して食味の選抜を2回行っている。食味もかなり重要視されていることがわかる。料理加工して味の選抜をする時には、農家の婦人達に参加することになっている。また、毎年、最も多くの数の品種を栽培している農家を選び表彰している。去年表彰された農家はなんと56品種ものバレイショを自分の畑で栽培していた。このような栽培慣行は、自然な状態での貴重な遺伝資源銀行になるし、遺伝資源消失をくい止めるために大変役立っている。実際に品種が混植栽培されている畑を多く見た。PROINPAではセンチュウ、育種、病理及び社会科学の研究室があり、設備はそれほど整っていないが頑張って研究を行っていた。最近、小規模ながらオユコとオカを収集・保存し、アシスタントが責任を持ってその管理を行っていた。

名字・地名のいも

まず、クイズをひとつ。人の姓に「一口」というのがありますが、これを何と読むのでしょうか？ 答えは、イモアイ。これは昔新潟県警が配布した『珍姓・珍名集』に載っていました。

芋のつく名字を、東京都内の電話番号簿から拾ってみますと、芋川さんが一番多く、芋生、芋野さんとおつづき、当然のことですが芋畑さんもいます。

芋生はイモウとよむのでしょうか。この地名としては、兵庫県川西市、和歌山県の橋本市、熊本県鹿本郡鹿北町にあります。

名では、自分の書いた絵が芋を買って食べるほどになればいい、とカッパの絵などを書いていた小川芋銭さんが有名（茨城県）です。

地名の芋川（イモガワ）は、秋田県の子吉（コヨシ）川の支流にあります。芋川は熊本県の球磨にも流れ、新潟県川口の山の中にも地名としてあります。また、芋田は、石川啄

木で知られる岩手県沢民の北にあります。

この外、新潟県南魚沼郡大和町には芋赤、大分県直入町長湯には俗称芋迫（イモサコ）、島根県太田市内には芋原があり、これはイモンハラと読むのが正解です。もう少し難しいのは芋坪で、これはイモゾネと読み、宮城県栗原郡築館町にあります。

夏目漱石の『わが輩は猫である』や、正岡子規の『病中日記』に出てくる「芋サカノダンゴ・ウマイウマイ」という平べったい羽二重団子の芋坂は、日暮里5丁目54番地の根岸の芋坂のことでした。

その外、奈良県飛鳥の近くには芋峠という静かな道があるそうです。愛媛県には、芋子瀬戸や芋子島というのがあります。同じ愛媛県銅山川上流宇摩郡別子ダムの下には、芋野があり、宮城県仙台の西には芋沢があります。

なお、北海道ではサトイモやサツマイモの栽培が難しく、また開拓の歴史が浅いので、芋や薯の着く地名は聞いていません。

（浅間和夫）

いも・つれづれ草